

平成19年度第4回宮前区区民会議

平成19年度 第4回 宮前区区民会議

- 1 日 時 平成20年2月13日(水)午後6時
- 2 場 所 宮前区役所4階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 小林委員長、川西副委員長、永野副委員長、浅野委員、宇賀神委員、亀ヶ谷委員、末澤委員、鈴木(和)委員、鈴木(恵)委員、高木委員、長谷川委員、福本委員、藤沢委員、松井委員、松本委員、三谷委員、目代委員、渡辺委員
 - (2) 参 与 太田参与、織田参与、佐々木参与、山田参与、持田参与
 - (3) 事務局 区長、副区長、総務企画課長、総務企画課主幹、総務企画課主査、保健福祉センター副所長、こども総合支援担当参事
- 4 議 題
 - (1) 第1期区民会議の総括について(公開)
 - ア 報告書(素案)の構成と内容
 - イ これまでの区民会議の取組と第2期に向けた課題
 - (2) 区民会議フォーラムについて(公開)
 - (3) 平成20年度宮前区協働推進事業計画(案)及び区の課題解決に向けた取組(案)について(公開)
 - (4) 川崎再生フロンティアプラン新実行計画策定資料について(公開)
 - (5) その他(公開)
- 5 傍聴者数 12人

午後6時05分開会

司会(岩澤) 皆様、こんばんは。定刻を5分ほど過ぎての開始となりましたけれども、よろしく願いいたします。

それでは、ただいまから平成19年度第4回宮前区区民会議を開催させていただきます。

本日の司会進行を務めさせていただきます、私、宮前区役所副区長の岩澤でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。恐縮でございますけれども、ここで着席をさせていただきます。

それでは、開会前に少し事務連絡をさせていただきたいと存じます。本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づきまして公開とさせていただいておりますので、このことから、傍聴者、報道機関等の取材を許可しておりますことをご了承いただきたいと思います。

次に、会議録の作成に当たりましては、1名の速記者を同席させていただいております。

ますので、よろしくお願ひ申し上げます。また、本日発言のございました方々につきましては、後日ご確認等をお願ひしたいと存じますので、あわせてよろしくお願ひいたします。

また、本日の傍聴者の方々につきましては、壁入口に貼付してございます遵守事項をお守りいただきたいと存じます。また、本日の会議に関するアンケート用紙を事前にお配りしておりますので、そちらのほうもお歸りの際には提出をお願ひしたいと存じます。

次に、本日の委員、参与の方々の出欠の状況でございますが、事前にご連絡いただいております方々についてご紹介をさせていただきたいと存じます。委員につきましては、小泉委員1名が事前にお届けをなされております。参与につきましては、福田参与、矢沢参与、浅野参与、飯田参与から事前の欠席のご連絡をいただいております。なお、佐々木参与につきましては、所用により若干おくれて入室されるということをご事前にご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。あと、山田参与につきましても若干おくれてくるということでございます。よろしくお願ひいたします。

続きまして、本日皆様のお手元に配付してございます資料のご確認をさせていただきたいと存じます。

まず、本日の会議次第、次に、別紙1としまして座席表でございます。次に、議事資料でございますが、資料1といたしまして、第1期宮前区区民会議 総括報告書（素案）となっております。56ページ物の冊子でございます。

次に、資料2、宮前区区民会議フォーラムの開催について（案）、A4判片面刷りのものでございます。

次に、資料3としまして、平成20年度宮前区協働推進事業計画（案）及び裏面の下段のほうに表記してございますけれども、平成20年度宮前区・区の課題解決に向けた取組（案）、A4判の両面1枚刷りとなっております。

次に、資料4としまして、川崎再生フロンティアプラン新実行計画策定資料（区計画抜粋）、A4判5枚物でございます。後半の2枚が両面刷りとなっております。

このほかに、お手元に参考資料といたしまして、5点ほど置かせていただきました。

1点目としまして、平成20年度川崎市予算案についてでございます。

2点目、「出会う知り合うつながる」と赤字で表記されております、「第6回市民自治創造・かわさきフォーラム みやまえ区民フォーラム」といったものでございます。

3点目、黄色の用紙で、「宮前区古代ミステリー発見イベント 野川神明社南遺跡見学とまちの歴史を学ぶ」でございます。

4 点目、水色の用紙で、宮前すこやか連絡会合同研修会「地域をつなぐ」。

5 点目、最後になります、「オオカミの護符」上映会のお知らせと、オオカミの絵が刷られているものがございます。

以上が本日の配付資料でございます。ご確認の上、落丁等がございましたら挙手をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。 それでは、早々でございますけれども、会議に入らせていただきます。

1 開 会

司会（岩澤） それでは、お手元の次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。

初めに、会議の開催に当たりまして、この区民会議の事務局を代表しまして、区長の大下よりあいさつを申し上げます。 それでは、区長、よろしく願いいたします。

区長 皆さん、こんばんは。大下でございます。最近寒い日が続いております。雪も降りました。にもかかわらず、委員の皆様はご健勝で、本日の第4回区民会議にご出席をいただきましてありがとうございます。心からお礼申し上げたいと思います。

ご案内のように、きょうの会議は今年度の最後の第4回目の会議でございます。と同時に、18年度から始まりまして、2年を任期とする第1期の宮前区区民会議の最終の会議でもございます。ちなみに申しますと、この3月に2年の任期を終えて、第1期の区民会議の幕を閉じますのは、7区の中でも宮前区のみでございます。とって、単に幕を閉じる、単に終わるというわけではございません。終わるに当たって、この2年間の活動を総括していただいて、そして、その成果も含めて報告書にまとめて上げて、それを公表していく、こういうことをする区民会議も市内では今回初めてでございます。その点で宮前区の区民会議の皆様方のご健闘とご奮闘に改めて感謝を申し上げ、お礼を申し上げたいというふうに思っている次第でございます。

そうしたこともございまして、きょうは2年間の活動を改めて振り返っていただきまして、その集大成といたしまして、忌憚のないご意見をいただいて、来年度からの第2期の区民会議に向けて、さまざまなご提案、ご意見をいただきたいというふうに思っている次第です。したがって、きょうの会議は事務局からの発言や説明は極力抑えまして、皆様方の闊達なご意見をなるべく多くいただきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それから、参与の皆様方におかれましては、試行の1年間を含めて3年間にわたってこの区民会議にご参加をいただき、さまざまなご意見をいただきました。きょうも改めて振り返っていただいて、ご助言などを存分にいただければ大変ありがたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、十分にご議論の時間をいただくために、私の冒頭のあいさつはこのぐら

いにさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございます。
司会（岩澤） ありがとうございます。

それでは、これからの進行は小林委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしく願います。

2 議 事

小林委員長 それでは、これから私が進行を務めさせていただきます。よろしく願います。

(1)第1期区民会議の総括について

ア 報告書（素案）の構成と内容

小林委員長 初めに、議事1の第1期区民会議の総括についてでございます。昨年の第3回区民会議以降、企画部会におきましては、地域コミュニティと地域防災の課題解決に向けた取り組みを行い、12月に報告書を区長へ提出いたしました。あわせて第1期のまとめについて協議をいたしました。その結果、年末に委員の皆様に対して、これまでの会議を振り返りまして、よかった点と反省すべき点についてご意見を伺いました。また、これまでの約2年間にわたる第1期区民会議の総括報告を資料1のとおり、企画部会でまとめまして、確認をいたしましたので、まず、事務局から資料の説明をお願いしたいと思います。

なお、説明につきましては、皆さんに事前に資料の配付をさせていただいておりますので、簡潔にお願いしたいと思います。

田邊企画調整担当主幹より、資料1について説明をしていただきたいと思います。よろしく願います。

事務局（田邊） 総務企画課の田邊でございます。それでは、私のほうから、資料1につきましてご説明をさせていただきます。

まず、表紙をごらんいただきたいと思います。第1期宮前区区民会議総括報告書（素案）でございます。平成18年7月から平成20年3月ということでございまして、この20年3月という任期につきましては、こちらの会議の中でも、任期につきましてご論議をいただきまして、宮前区につきましては3月をもって終了するというところで、これは7区のうち宮前区のみという形になっております。発行日といたしましては平成20年3月ということでございまして、その下に、発行主体でございますが、宮前区区民会議と宮前区役所という形の両者が併記という形をとらせていただいております。この発行主体の両者併記につきましては、区民会議の企画部会及び区役所内等でも議論いたしまして、本来でありましたら、附属機関と執行機関、諮問と答申とい

う関係の中で、両者が一体となって総括するということでありまして、これは新たな試みではないかというふうに考えておりますが、もともとこの事業自体が区民との協働という特殊な領域の部分でございますので、発行主体がこういった形で両者が一体となって報告するという形もよろしいのではないかとということで、このような形をとらせていただいております。

では、1枚めくっていただきまして、目次でございます。目次をごらんいただきますと、いわゆる本編というところで、第1章から第5章までの構成となっております。第1章につきましては、第1期宮前区区民会議の活動成果、第2章、宮前区区民会議のしくみ、第3章、第1期宮前区区民会議からの提案と取組、第4章、第1期宮前区区民会議の活動の経過、第5章、第2期以降の宮前区区民会議に向けてとなっております。さらにその後に、資料編ということで、38ページ以降に資料が添付されております。

この目次の後でございますが、本日の資料には入っておりませんが、3月22日の区民会議フォーラムを終えた後、委員長及び区長のあいさつをこの目次の後に添付する予定となっております。

それでは、資料の1ページでございます。1ページ、2ページが第1章ということになっておりまして、第1期宮前区区民会議の活動成果という構成になっております。1といたしまして、身近な地域の課題の解決策を提案ということで、今までの活動、18年度、19年度の2年間の活動、4部会による23提案ということで、概要のみ記載しております。

また、2といたしまして、地域課題解決へ協働の取組が動き出したということで、地域の取組、行政の取組という形になっております。

また、2ページにまいりますと、区民会議からの提案内容が盛り込まれました平成20年度宮前区協働推進事業等一覧を記載させていただいております。

また、3といたしましては、区民会議の活動をPRということでございまして、昨年度及び今年度、これから予定しております区民会議フォーラム及び「みやまえ区民会議だより」でございますが、今までに4号発行しておりまして、毎号9000部でございます。また、最後に、今年度末に第5号を発行する予定となっております。

この総括書のレイアウト等につきましても、できる限り見やすいように工夫をさせていただきました。なるべく見開きの左右両ページで完結するような形になるようにレイアウトを工夫していますとともに、できるだけ写真等を活用して、視覚に訴えるような工夫もしております。

続きまして、3ページ、4ページでございますが、3ページ、4ページは、第2章：宮前区区民会議のしくみという構成になっておりまして、STEP1からSTEP5まで、区民会議の流れをこちらで簡潔に示してございます。STEP1では地域

課題の把握・整理ということでございまして、当初の146課題、以後、追加がございまして、最終的には159課題があったというところから始まりまして、STEP 2の審議課題の選定 専門部会の設置、さらにSTEP 3、専門部会による検討、STEP 4、地域課題解決のまとめと報告書の提出、STEP 5、取組の方向性の提示、協働の取組の推進といった構成になっております。

続きまして、5ページにまいりますと、第3章でございまして。第3章はかなりボリュームがある部分でございまして、第1期宮前区区民会議からの提案と取組について触れております。

5ページ、6ページにつきましては、第1期宮前区区民会議からの提案一覧を示させていただきますいております。高齢者福祉、子育て支援、明日のコミュニティ、地域防災という、4つの各部会から提案されました合計23の提案を簡潔にこちらで列挙させていただきます。

また、ページをめくっていただきまして、7ページ、8ページでございまして、こちらは提案内容と提案に対する取組状況の一覧が、概要といたしまして、簡単にわかるような資料として整理してございまして、それぞれ各高齢者及び子育て支援の部会から提案をいただいたものにつきましては、提案の概要とその取組の概要を記載させていただきます。また、地域コミュニティと地域防災につきましては、取組につきましてはこれからということでございまして、提案の内容だけこちらに記載しております。

ページをめくっていただきまして、9ページ以降でございまして。9ページ以降につきましては、今までの提案内容と提案に対する取組状況の詳細を記載させていただきます。ちなみに9ページを例にご紹介させていただきますと、高齢者の部分でございまして、課題ごとにくくってございまして、課題1が地域による高齢者の見守りということでございまして、その中の1つといたしまして、提案の となっておりますが、ご近所サークルの形成という提案に対する取組状況が書かれております。区民会議からの提案、区役所の取組の方向性を踏まえまして、取組状況といたしまして、地域の取組、行政の取組に分けまして、さらに提案時の状況と現在の状況というような仕分けをいたしまして、こちらに記載しております。また、この取組に当たって、提案の実現に向けて取り組んだことという欄を設けまして、具体的な取組内容等をこちらに記載しております。

また、その下に点線で囲まれた部分でございまして。こちらの場合ですと、野川地区のご近所サークル「ダイヤモンドクラブ」となっておりますが、これにつきましては、提案時の状況または現在の状況またはその中間での取組状況等の中で、トピック的に地域の活動、行政の取組等をこちらで紹介させていただくというような構成になっております。

このような形で9ページ以降、高齢者の取組につきましては、16ページまでという形になってございます。

また、17ページからは子育てに関する取組につきまして記載しております。子育てにつきましては、24ページまでという形になってございます。

また、25ページをお開きいただきますと、こちらからは、新たにご提案を昨年12月にいただきました地域コミュニティの部分につきまして、25ページと26ページ、それから、27ページまで、ご提案の内容を記載しております。この中で行政の取組が空欄になっておりますが、これは今後、こちらの中に将来的に記載されていくことになると思います。また、区役所の取組の方向性につきましては、現在区役所で具体的な取組方法を検討してございまして、間もなく、遅くとも区民会議フォーラムまでには方向性をきちんと提示する予定でございまして、ですから、その段階では区役所の取組の方向性はこちらにきちんと書き込む予定になっております。

また、28ページからは地域防災に関する部分でございまして、こちらも同じように28ページから30ページまで提案内容を中心に書き込みを行ってございます。

続きまして、31ページでございまして、こちらから第4章が始まります。第4章：第1期宮前区区民会議の活動の経過ということでございまして、区民会議の本会議を初め、各部会の活動内容等をこちらにまとめさせていただきました。また、これ以外にも勉強会ですとか、それから、参与との意見交換会等も実施してまいりましたので、そういったこともこちらの中に盛り込んでおります。

続きまして、35ページをお開き願いたいと思います。35ページからは第5章といたしまして、第2期以降の宮前区区民会議に向けてということでございまして、この2年近くに及ぶ皆様方の取組を通じまして、皆様方、委員からいただきました評価すべき点、それから、改善すべき点等の意見をいただきました。それをまとめたものがこちら35ページ、36ページ、37ページになっております。1の地域課題の把握方法から、その他まで、6項目につきましてそれぞれ委員の皆様方からご意見をいただきまして、それを集約したものがこちらにまとめて記載させていただいております。

また、38ページからは資料編という形になってございまして、39ページには、資料1といたしまして区民会議委員の名簿、資料2といたしまして、40ページには第1期宮前区区民会議の枠組み、41ページは、資料3といたしまして第1期宮前区区民会議委員構成、42ページは、資料4といたしまして地域社会における課題の整理・関連付け、それから、資料5、43ページでございまして、宮前区における地域の課題一覧、資料6-1となっております、44ページでございまして、宮前区区民会議高齢者福祉部会議論のまとめということで、44ページから47ページまでにつきましては、各部会のいわゆる議論ペーパーが資料として添付してございまして、これまでの資料につきましては、従前の会議等でもお示しをしてきたものでございます。

また、48ページでございます。資料7でございますが、これが先ほどご説明いたしました、第5章の第2期以降の宮前区区民会議に向けた委員意見の集約のもととなりました、委員の皆様方からいただきました意見のすべてでございます。こちらの見方でございますけれども、課題ごとに整理してございまして、横に並んで見ていただきまして、委員のお1方につき横1行となっております。ですので、左右のうち、どちらかが空間というような場所もありますが、それはその部分には委員の方の意見の記載がなかったというふうにご理解願えればと思います。こういった形で資料編のほうも整理をさせていただきました。

以上をもちまして、総括報告書（素案）の説明とさせていただきます。

小林委員長 ありがとうございます。

それでは、初めに、報告書の構成と内容につきまして、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。なお、第5章の第2期以降の区民会議に向けた課題などについては、後ほど意見を伺いたいと思います。ご意見のある方は挙手をしてご発言いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

特になければ、部会長から。

永野副委員長 56ページにわたる膨大な報告書ということでできました。これ、企画部会で検討したときに、こんなに多くのページ数で市民の皆さんに読んでもらえるのかという意見も出ました。確かにこういう報告書というのはいっぱいいろいろなところでできて、なかなか市民が読まないんですけれども、やはり2年間活動してきた中身をびしりと整理して報告書にまとめるのは必要だということで、この報告書はこういう形でやろうということが決まりました。

それで、課題として、検討されてここに書かれていることを市民みんなが共有する、その方法をまた別に考えなきゃいかんということですね。この報告書だけをつくって終わりではなくて、ここに書かれたことを市民一人一人に伝えるような形で、もう少し見やすい形とか、さまざまな形で市民に伝える方策を別に考えよう、そういうことが1つ議論として出ました。それだけ報告しておきます。

小林委員長 ただいまの永野さんの発言は、企画会議でのまとめということがあります。企画会議ではもう一つは、市長に出したらどうかという意見がありまして、市長に出すということに今調整中というふうに聞いております。そして、区民にお話ししたように広報しなければいけないということで、わかりやすいということで「区民会議だより」にまとめて出したらどうかというご意見がありました。企画部会ではそんなことでしたでしょうか。

それでは、各部会長からご意見をお聞きしたいと思いますが、鈴木さんから、高齢者のほうはこれでどうでしょうか。

鈴木（恵）委員 わかりやすくまとめていただいているので、これから課題の取組をどう

やっていくのか、まだこれからだと思いますけれども、十分な内容だと思います。

小林委員長 子育て支援につきましては、目代部会長から。

目代委員 構成についての意見でよろしいでしょうか。よくまとめていただいていると思います。この内容を区民の方たちに、こういう活動をしているということを知っていただきたいし、もっと子育て中のお母さんたちにこういう宮前区全体が子育てを応援していますよということを何かメッセージとして発していけたらいいなと思っております。

小林委員長 それでは、明日のコミュニティ部会の宇賀神さん。

宇賀神委員 取り上げたテーマがコミュニティということだったので、どんな形でまとめたらいいかということ非常に悩んだんですけども、これを見まして非常に安心しまして、よくまとめていただいたなというような感想を持っております。

あと、行政の取組がこの時点でまだ空欄ということでございます。ここに後で書き込んでいくんでしょうけれども、それをどうやって伝えていくのかというのをちょっと疑問に思いましたけれども、非常にまとめていただいてありがとうございました。

小林委員長 それでは、地域防災の部会長の渡辺さんからお願いします。

渡辺委員 私、防災に関して大変よくまとめていただいたと思っております。ただ、防災というのは、ほかの部会もそうなんですけれども、非常に幅広くて、まだまだやることあって、あくまでもこれはパートワンの提案だと思うんです。この提案に対して取組をやるだけでもまた大変なので、提案件数としては少なかったんですけども、ぜひこれは実行するようにみんなで協力していかなければいけないと思しました。とてもよくまとめていただいたと思います。

小林委員長 ほかにご意見のある委員の方はいらっしゃいませんか。特にご意見がなければ、この報告書の構成と内容につきましては、まだ参与の方々のご意見なんかもありますが、これに基づきましてご承認をいただきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

イ これまでの区民会議の取組と第2期に向けた課題

小林委員長 それでは、次に、総括の報告の第5章であります。これまでの区民会議の取組と第2期に向けた課題について、各委員からいただいた意見をまとめていますが、改めてこの場で報告書の項目ごとにつきまして意見交換を行い、確認をしていきたいと思っております。

事前にご意見をいただいた意見につきましては、資料編、資料7に載せてありますので、まだご意見をいただいている方でご発言がいただければ幸いです。また、後日ご意見をご提出いただいても、それは資料編に追加させていただきたいというふうに思います。

それでは、課題の把握方法につきまして、そこから議論をしていきたいと思いません。ご意見のある方はご発言をいただきたいと思いません。皆さんここに意見を書いていますから、よろしいですか。

それでは、一つ一つではご発言しにくければ、全部まとめたところで結構です。で、ご発言がありましたら。

藤沢委員 独断と偏見になるかもしれませんが、私の感じたところを少し話させていただきます。

その他にもちょっと書いてあるんですけども、意見を集約すると、1つのことに対して、例えば何でも結構ですけども、右の意見と左の意見と、また中間的にこれだよという意見があるやに思いません。どの点をとっても結構ですけども、賛否両論の中に介在していると思いません。人間は神様でないから、いろいろな考え方をし当たり前だと思っておりますので、いいとか悪いとかというのではなくして、交通整理上、私の意見をちょっと申し上げますと、この会議がどこに基軸（委員各位の巣主義主張の最大公約数の合意形成）があるのか、はっきりしない部分がありますので、それをはっきりしていただきたい。私自身も迷っている部分がございます、例えばどういうことかという、この会議自体が区長さんのためにあるのか、宮前区民のためにあるのか、その辺をはっきりさせていただけると非常にありがたい。それから、この会議が、参与の方がなかなか発言ができない体制、これも私個人的にはすごく歯がゆく思って、びしばしと言っていたほうが、この会はまとまりづらいかもしれませんが、成長して、実のある会議体になっていくのではないかと。

もう一つは、目標、目的がはっきりしているかという、必ずしもそうではない。この中に入る書いてあるように、あの人の発言はいただけないとか、好きだ嫌いだとかという批判の言葉もいっぱいござっております。だから、この会の目的がどこにあるのか、宮前区民の幸せ、至福に至る道を探せばいいのか、るるそういう点をまとめていただきたい。第2期に向かったの希望でございます。

すなわち、国には憲法があって、会社には社訓があって、書籍には序論なりはしがきがあって、個々の家には表札がございます。このまとめの報告書の中にどれが表札なのか、トータル的にだれが主体で、どういう目的で、この会の目指す方向はどういうことかということ、これを2～3行でも結構だから、私はこの会議の憲章と言っているんですけども、それを最初にうたって、そうすると、この人の範疇にない発言をされて困るとか、だれだれがいいとか、だれだれが悪いとかという基軸がはっきりしてくると、会議が非常に合理的に進むやに感じますので、一言、老婆心でございますが、意見を述べさせていただきます。

小林委員長 ありがとうございます。どなたかご意見は。

区長 3つほどご意見をいただきまして、2年間やってまいりまして、この時点でそうい

うご発言をいただくとはちょっと思いもしなかったのですが、まず最初の区民のためか区長のためか、これは区民のためでございます。それは申し上げるまでもなく、区民の皆様のご生活環境等々よくしていく、それを区民の皆様ご自身の委員の皆様がご自身で課題を見つけて、宮前区がよくなるためにこういう課題がある、見つけて、その解決策も自分たちで話し合っ、そして、それを実行に移して解決に取り組んでいく、その中核となる会議がこの会議でございます。

2つ目のご質問は、参与さんの発言の機会ございましたか。それは途中で小林委員長がいろいろご配慮いただいて、参与の発言の機会をつくっていただきましたし、委員の皆様方と参与の皆様方の意見交換もしていただきました。これは委員と参与の立場の違いというものもございますので、委員と参与が全く同じようにということには結果的にはまいらなかったのではないかとこのように思っております。

3つ目は、表札、あるいは社訓といった話が出ましたが、この区民会議は試行の期間も含めて3年やりましたが、2年前の冒頭に、この区民会議の位置づけというものを説明申し上げたのではないかと記憶しておりますが、一番もとになっているのは川崎市の自治基本条例で、これからのまちづくりは区民、市民の皆さんの参加と協働でやる、その参加と協働の実践の場、実践の機会として区民会議を設置すると条例で定められておまして、さらにこの区民会議の果たす役割と機能については、区民会議条例というのが別途ございまして、それに基づいてこの会議は運営されていると、市長の諮問機関として運営されている、そういうことでございますので、その辺の基本的なところはどうかご理解いただきたいと思っております。

永野副委員長 多分、藤沢先生ご指摘は、この報告書を見てそういったことがあらわれないと、その一番前段の目的と主体というものをやはり報告書の一番頭に書くべきではないかということだろうと思うんですね。その答えは今区長さんがおっしゃっていただいたように、市民自治基本条例に基づいて、市民が主体のまちづくりをやっていく、その区民会議だということに思うんですね。いわゆる国民国家、地方分権、その地方分権の各自治体を中心になってやる、そのもっと具体的なところに、市民の生活の基盤からのまちづくりというんですか、地域課題、市民の暮らしのレベルから見た地域課題の解決、その手法を市民同士の協働、市民と地域と行政と、その3者の協働、その協働でやっていこう、それが区民会議の一番のもとだと思うんですね。これは地球規模で考えても、21世紀の新しい都市市民の市民合意の作り方の基本に基づいていると思うんですね。だから、そういった形というのはやはり一番最初に明記すべきだと、それはそれでいいと思っております。

川西副委員長 今、藤沢先生がご指摘いただいたことは、これから申し上げることで、より明確になるのではないかと改めてご提案したいと思っております。

まず、ページ数でいくと、35、36、37ページが、今回私たち委員がそれぞれいろいろ

るな思いを書いた第1期の評価、あるいは第2に向けての提案というところが簡略に区民フォーラム向けにも抽出して分析結果が書いてあるんですけども、確かにこれはトーンが全部一定にはなっていないんです。例えば2の審議対象課題の優先順位付け・分野、規模、課題の数などという、ここのところが特にほかの場合とトーンがそろっていないんですけども、例えば第2期に向けた課題というふうに書いてあるところで、何とかの審議対象課題についてと言って、その後は発言が、それぞれ代表的なものを書いてあるんですね。ここのところはむしろ第2期に向けた課題のところは、意見は分散していて、必ずしも1の課題の把握方法で見たような、全員が高評価でまとまるというところは見えてこない。特に課題の規模とか、課題の数とか、課題の審議機関ということについては、種々さまざまな評価が見えるので、今後そういうときはそれぞれにおいて全体の合意形成が、委員同士の合意形成ができるようにしなければならぬという、そういう簡単な分析がはしょってあって、発言だけが多々出ている。あとのところは一応分析がまずあって、その後、発言の例が上がっているんですけども、そういうようなところを書かれたら、少しは見えやすくなるかなと思います。

それから、今、趣旨とか位置づけというのは、区長とか、永野さんもおっしゃいましたが、これは冒頭で小林議長とか、あるいは区長がお書きになる初めの文言の中に当然そういう位置づけなんかはご披露されるでしょうし、特に議長には、私たち、何もわからなくて、どういう会議をつくったらいいのかという、この3年間の試行錯誤について、私たち委員の目線からいろいろみんなで合意形成をしながらやってきたということは多分触られるのではないかな、そういうことで随分クリアになるのではないかと思います。

小林委員長 ほかにご意見のある委員の方はいらっしゃいますか。長谷川さん。

長谷川委員 大した話ではないんですけども、資料編で皆さんの参加状況なんかを見ていますと、一部の人には部会というのほとんど参加せずに、一部の人にはたくさん参加しているのが見られて、これなんかは一部の人に負担になって、一部の人は何もしないというわけじゃないけど、4回だけで、部会のほうの活動がなかったような、そういうことになるんですけども、これは部会を選ぶとか参加するというのは自薦だったですか。そうでなければどうやったのかな。これで次回も、せっかく委員に選ばれても、部会のほうに参加しないと、結局余り意味がないのかもしれないので、部会の参加の方法についても、これは別に意見なので、回答を求めているわけではないんですけども、そんなような感じがして、せっかく選出されてきたんだから、部会に参加したほうがよかったのではないかなというような気がします。

小林委員長 ほかにご意見がなければ、藤沢先生。

藤沢委員 ちょっとコメントをさせていただきます。

本日記られたこの資料は、今、総務企画課主幹の田邊さんが説明してくださって、資料も説明もとてもすばらしくて、びっくりするぐらいすばらしいと感心しております。川崎市宮前区の企画課に何人専任の方がいらっしゃるかわかりませんが、後でそっと教えてほしいんですが、すばらしいと思います。私が言っているのはそういうことではなくして、この資料を一般市民、区民が見たときに、焼きとり屋で飲んでいるような、またはスーパーで買い物している人たち いろいろな方が市民におります の中で見たときに、これがずっと入ってくるかどうかという話です。このメンバーは優秀でありますし、るる逐一、一から立ち上げから皆さんが見守って、育てて、今日来ていますから、重々わかっていると思います。私が憂えているのは、この資料を見たときに、一般区民がどこまで理解してもらえるかという話です。これをできるだけ浸透していきたい、空気を盛り上げていきたいという夢、希望を持っておりますので、そのためにはどこか表札とか、ぱっと、どういうメンバーで、どういう趣旨で、どう考えているのか、うたってほしいという希望でございます。

三谷委員 大分評論家的な発言をなさっているのでびっくりしたんですが、藤沢さんも我々もメンバーの一人なんですね。ですから、評論家的な発言はやめましょうよ。それから、この報告書は、きょう我々に対しての報告書であると思うんですね。したがって、知った上での報告書でございますから、それを知らないというのは、今さら言っているのはおかしな話ですから。知った上での報告書であると思います。したがって、これ全部は確かに区民向けではないだろうと思いますので、フォーラム向け、あるいは区民向けのものについては、新たに考えるべきであって、これはテクニク上の問題でございますから、テクニク的な話を一生懸命ここで議論しても時間の無駄です。そういう話はやめましょう。

小林委員長 ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。浅野さん。

浅野委員 資料を読んでいて、以前は気がつかなかったんですが、ふと気がついてみると、現在の状況までいろいろ取組が書かれているんですが、もしこういうのを目にされた方が自分も参加したいというときの連絡先みたいなものが、それぞれによって違うのかと思うので、できれば、そういうものがもし入れられたら、追加していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

小林委員長 ほかにご意見のある方は。

亀ヶ谷委員 これは宮前区の区民会議ということで、今回このような形でまとまってきていると思うんです。ほかの区でも同じように区民会議というのは開かれているわけですので、これは意見ではなくて希望なんです。多分川崎市内、いろいろな課題がそれぞれそんなに違いはないと思うんですけれども、他の区の区民会議の状況みたいなものも、今後、2期目に入るに当たって、資料的に見せていただけるようなものがあればとても参考になるなと思っていたので、その辺もあわせてご検討いただければと思

います。

小林委員長 ほかの区の進捗状況というのは、先ほどいらっしゃってましたね。ちょっと報告をしていただけますか。

事務局（田邊） 差し支えなければ私のほうからでもよろしいですか。ほかの区の進捗状況でございますが、正直申し上げまして、7区の中では、宮前区が一番早いです。先陣を切っております。そういったこともありまして、本年3月末日をもって、第1期目を終了できるということございまして、他の6区につきましては、任期につきましては、おおむね20年の7月ごろまでということで、これから最終的な報告に向けての取りまとめ作業を行うというような状況が多く区でございます。これに対しまして宮前区では、既に3回の提案を行っておりまして、提案自体は昨年12月で終了しております。さらにそれに輪をかけるような形で総括までするという状況まで来ておりまして、実際にほかの区が総括までするかどうかは、これはわからないし、多分総括までたどり着けなくて、提案、報告で任期を終えるのではないかとというような状況もあるのではないかとございまして。若干の区では中間報告等をしている区等もございまして、その辺の情報は入手してございまして、やはり適宜それはその段階で提供することも必要かなというふうに今の意見をいただきまして感じました。

小林委員長 実はあした、2月14日に、第2回区民会議フォーラムの準備委員会がありまして、各区から皆さん出席されまして、私は出てまいりますが、各区の取組状況とか、そういうのがよくわかるのかなというふうに思っていますので、またご報告する機会がありましたらさせていただきます。

一通り皆さんよろしいでしょうか。区民に対してよく理解していただかなければいけないということは重々承知しておりまして、「区民会議だより」を、これは私たちがきちとした資料をつくっておかなければいけないという考えであります。これを市民全員に配っても見ていただけるとはとても思えないですから、これを非常にわかりやすい形のエッセンスを「区民会議だより」としてぜひ発行したいと思っております。そのように考えておりますので、ご了承いただきたいと思っております。

藤沢先生、そういうことでよろしいですか。

藤沢委員 評論家という指摘を受けまして、それを言われても仕方がないと思っております。私もどうとられようと、それは仕方がないことございまして、こういう2年間を締めくくるに当たって、くくり、最後の宣言なり、憲章なり、そういうものが必要だと。要するにこの文章の中にそういう部分が必要で、初めて彫刻に、仏像に目が入るのだというふうに私は思っているものですから、そういう意味で、老婆心ながら指摘させていただいて、ご批判はあえて受けます（基軸がはっきりしないと動きようがない。）。どうもありがとうございました。

区長 先ほど川西委員からもお話がございました。今、委員からもお話がございましたが、そういった点は、先ほど田邊主幹から説明申し上げたように、冒頭に委員長と区長のメッセージが入ることになっておりますので、その中でそういった要素も入れながら、この位置づけもきちっとして、皆さんにごらんいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

鈴木（和）委員 区民だよりを集約してわかりやすく出すということ、これは私も非常に大事だと思ひます。そのときに、読者の人の声とアンケートみたいなのも書く欄があれば、もっといいかなというふうに私は思ひますけれども、いかがでしょうか。

小林委員長 それは考へてみたいと思ひます。

それでは、ご批判がいろいろある中で、参与の先生方のご意見を聞く機会が大変少なかったことに関して私は委員長として大変おわび申し上げたいと思ひます。時間的な制約があったことは、委員の方々の議論さえ十分でなかったというふうに思ひます。そのことについては、また第2期に向けて大きな課題だろうというふうに思ひます。そのことについては、また第2期に向けて大きな課題だろうというふうに思ひます。そのことも資料編に出ておりますので、次期のほうで検討していただきたいと思ひます。

あと、参与の方々に、この1期を終えましての問題点、よかった点、改善すべき点等々ありましたら、きょうご出席いただかない参与の方々にも、我々のアンケートというか、意見を聞いた書式で問い合わせをいたしまして、この資料に載せたいというふうに企画のほうで考へておりまして、そのように事務方のほうにお願ひいたしまして、連絡をとっていただいております。きょうは事前に参与の先生方にも、第2期以降につきましての改善すべき点等が多々あると思ひますので、十分発言の時間をとってありますので、ご発言をいただきたいというふうに思ひます。事前に連絡していると思ひますが、持田先生からひとつ改善すべき点がありましたらお教へいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

持田参与 大変ご苦勞さまでございます。試行がございまして、そして、第1期ということで、委員の皆様方、本当にお忙しい中、こうして毎回毎回ご出席をされながらということで、本当にご苦勞さまでございます。まとめもしっかりとまとめていただいて、読ませていただいておりますけれども、委員の皆様方からされると、まだまだ時間がなかったのか、そんな感じにも受けさせていただいております。先ほど事務局の方からご報告がございましたように、他の区を見させていただくと、まだまだここまでにまとまっていないという状況であります。そういう中でスピード感を持って、これだけの課題提起をいただきながら、また提起のみならず、どのように行動し、取りまとめたいこうということまで議論をいただいて、このようなまとめとしていただいているのかと思ひますが、また一方では、皆様方の今後の課題の中でも時間的なもの、あるいは課題をもう少し集約した中で、掘り下げた中でというご意見もあるのか

なと思っておりますけれども、総じて第1期ということでは、ここまでよくおまとめいただいているのかなと思っておりますし、私自身も、参与の発言の機会がない、これはいろいろなご意見があろうかと思いますが、私はあるなしにかかわらず、参加させていただくことによって、私自身の視点、あるいはまた角度から見えない部分というのを区内のことで見させていただきましたりということで、またそれを私たちが議会で活動の中に生かさせていただくことが大切なことであろうと、こんなふうにも自分自身思っております。

そして、今後のことでありまして、今後のことにつきましては、宮前区の中、いろいろな課題があるのかなと思っております。今直面している課題もしかりであります。それから、将来的にこれから直面してくるであろうという課題も想定ができるのかなと思っております。中国のギョーザしかりであろうと思っております。こうした食の問題も、私ども、生活をするということでは身近なことでもありますし、となると、農業との結びつきというものも出てまいります。地産地消、こういうことを思いますと、地産地消が進行するしないというのは、これはまた消費者の方々との結びつきというのがそこには多くあろうかと思っております。そういった点もかんがみながら、食の問題も大きなテーマで、地域性ということではなく、大きなテーマかと思っておりますが、都市の中で21万2000人の多くの方々がお住まいいただけるこの宮前区、県で市町村に置きかえてみますと、小田原市より宮前区のほうが人口が多いんですね。そのくらいの地域ですから、そういったことを思いますときには、農業を見ますと、都市の中の農業ということにもなるかと思っております。

ちょっと長くなって恐縮でありますけれども、本来、神奈川県を見ますときに、県央県西が農業地帯であり、横浜、川崎が人口集中した地域であります。しかしながら、今農業が営まれ、農業が進行できている、また、後継者がいるというのは、不思議と川崎、横浜のほうが後継者が育つんですね。これは何であるのかな。こういった点にも着目をいただきながら、住まいするところ、そしてまた、農という地産地消、こういう部分が共存できるようなまちづくりというものもこれから必要ではないのかなと思っておりますし、また、人口はまだまだふえ続けるようでもありますけれども、10年ぐらいしますと、この宮前区も人口がやがてピークになるのかな、そういったときに、高齢者の方々とはというと、まだまだ高齢者の方々もふえつつあるわけでありまして。

そして、今、宮前区、鉄道の駅は3つしかないんですね。アクセスという部分では。高津区、多摩区等々を見ますと、もっとたくさんあるんですね。ですから、やはりこれは鉄道利用不便地域が区内に広く広がるということで、高齢者の方々にしてみますと、特に宮前区は起伏の激しい場所でもありますから、地名を挙げてみますと、例えば利便性豊かであると思われるような鷺沼駅に近い有馬8丁目、9丁目、こうい

った方々が鷺沼駅に向かおうとすると、起伏が激しいですから、ご高齢の方々は非常にそこに到達しづらいということにもなります。一例を挙げさせていただきましても、このみならず、区内にはいろいろなそういった場所もございます。ですから、こういう交通アクセスのことも将来的に1つ大きな課題でもあるのかなと思います。

一人で話させていただいてもどうかと思いますので、いろいろ課題等はございませけれども、これまで本当に委員の方々が真剣にご議論をいただき、こうしたすばらしい取りまとめをしていただいております。心から感謝を申し上げさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

小林委員長 それでは、山田参与。

山田参与 皆様、こんばんは。委員の皆様には今期、大変にありがとうございました。私も参加させていただきまして感じていることでございますけれども、この会議が発足したときに、地域の課題は地域で解決ができる、そういった仕組みをつくっていこうということが最初だったと思います。今、持田参与からもございましたけれども、いろいろな課題はある中で、最も共通して、各地域で大きな問題となっている高齢者の問題であったり、子育ての問題、ここまでよく本当に委員の皆様たちが日ごろの時間のない中でまとめていただいた、そのことに対しまして感謝いたします。

私もこれからの区民会議を考えていく中で、先ほどもご指摘ございました、この会議の出た課題を解決するための皆さんの知恵をいかに地域に今度は還元していくか、どういうふうにやって表現していくかということがまた1つ委員の皆様、そして私たち参与のかかわりになってくるのかなというふうにも思いますけれども、そういったことを具体的に口頭で、あるいはたよりによって伝えられればよろしいなというふうに考えております。特に表現をする方法というのは、そんなにいっぱいはないのかもしれない。ですけれども、例えば今9000部配られているたよりについても、どれだけの方がそれをごらんになっていらっしゃるのでしょうか。私は野川に住んでおりますけれども、先日、町内会の回覧板を通しましてそれを確認させていただきましたけれども、そうしたことを各委員の皆さん、そして、私たち参与がしっかりと地域に訴えていくことも大事だなというふうに思います。

さらには、これからの区民会議を充実させていくためには、私も、先ほど持田県議がおっしゃってありました、発言があればいいのか。確かに発言をしたい場面もございませけれども、皆さんのそうした真剣にいろいろな角度から発言をされていることを私たちが聞くということも大変勉強になりました。特に高齢者の部分では、運動論がいろいろなところに飛び火いたしまして、例えば公園でラジオ体操というか、体操が行われるようになってまいりましたよね。あるいは全国初になりましたけれども、宮前からこういったやり方をしていますよということがテレビにも紹介される、

こういうこともございました。本当にこれはすごいことではないかなと私は思っております。

これからの宮前の課題というのは、確かにいっぱいあります。私も取り上げていきたいなと思っておりますのは、明日のコミュニティ部会でもございましたけれども、コミュニティの単位って何なの、どのぐらいの単位が一番いいのかな。そうしたときに、いろいろな地域の単位、語れる単位をつくるためには、どういうふうな形の仕組みをつくっていったらいいのか、あるいはそれに語るための拠点というのはどのような整備がなされているのかということも皆さんと協議をしたらいいのかなというふうに思います。公共施設があります。小学校もありますし、中学校もあります。それが本当に地域の皆さんたちがうまく活用できている状況になっているのかどうかということも検証しながらやっていけたらいいなというふうに考えております。今後とも、私自身も一生懸命、地域の皆さんの声をいただきながら、また、委員の皆さんのそういった意見をしっかりと受けとめながら、仕組みづくりの一翼を一緒になって担わせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

小林委員長 ありがとうございます。それでは、佐々木参与、お願いいたします。

佐々木参与 すみません。おくれてきていきなり発言させていただくことをお許してください。

区民会議、試行の時期も含めまして、正直言って、きちんとした制度設計がこの間、議会の中でもできてきたのかということ、実は逆に私たち議会サイドのほうから皆様におわびをしないといけないところも多々まだあったのではないかなというふうに思っています。議会の中で制度設計がきちんとなされないままの見切り発車だった部分がかかりあった、そのことによって皆さんを混乱させてしまったようなことももしかしたらあったのかなと思いますけれども、やはり川崎の中で行政区の中でこういう会議を持つということ、この重要性からも見切り発車ではありましたけれども、始めて、特に宮前の場合はいろいろな成果が出せたということについては、皆様に感謝を申し上げるしかないなというふうに改めて思っています。

政令市の中に川崎の市議会というのが1つしかない中で、7区の行政区が抱える課題はそれぞれ違ってきます。自分たちが身近な場所で住む市民の方たちとともに課題を解決していく仕組み、まだまだ改善していかなければいけないところはたくさんあるとは思いますが、これを1期からまた2期へ、そして、課題もまとめてくださっていますので、またそれも含めて制度づくりのほうに反映させていくことも私たちの一つの仕事だというふうに思っています。

決して7区が横並びで同じである区民会議である必要はないと私は思っていますし、宮前は宮前なりのやり方で、ただ、どこの区にも言えることですが、市議会が遠いと言われるように、区民会議が遠いと言われぬような工夫というものも、

これから、もちろん今、山田さんもおっしゃられていましたけれども、私たちもそのことを含めて、いかにどのように多くの市民の方たちを巻き込んでいくかということが大きな課題であるというふうに認識しております。本当に見切り発車であったことに対しておわびをするとともに、皆様の今回のおまとめに対して感謝申し上げます。

小林委員長 ありがとうございます。それでは、太田参与、お願いいたします。

太田参与 私は昨年4月からですので、途中からで、半分しか区民会議を見ておりませんが、その前に実は区民会議には、まちづくり協議会という立場から見させていただいたときに、両方の立場があるんですけれども、どうなるのかなと最初この会議をよくわからなかったところがありました。実際にこうして参与として参加させていただいて、意見も言えない部分があって、そうした中で、まだこれからつくり上げていく会議なんだなというふうに思います。

実はいろいろな会議が開かれていましたよね。ここの会議ではなくて、事前のいろいろな会議。地域の皆さんと一緒に話し合っている会議、これをすごく大事にしていかなくちゃいけないし、きっとその人たちの意見がこういった場で生かされてくる形がきっと区民会議が本当に生きてくるのではないかなと、両方かかわらせていただいた立場からそう思いますので、それぞれのこの区民会議の事前にやっているいろいろな会議の人たちの意見がうまく生かされる、そういう会議になってほしいという希望を申し上げまして、簡単ですが、私の感想を述べさせていただきました。

小林委員長 ありがとうございます。織田参与、お願いいたします。

織田参与 こんばんは。まず冒頭、区民会議、一生懸命ご議論いただいた委員の皆さんと、あとそれをサポートされた行政職員の皆さんに、これは心から敬意を申し上げますと思います。一つの立派な実績ができたんだらうということは率直に評価を申し上げますと思います。

ただ、先ほど持田参与、また山田参与からも話がありました。佐々木参与もおっしゃっていましたけれども、行政区、川崎市宮前区は、大ざっぱな言い方をしますと、区役所として予算もなければ、権限もない、そういう中で20万人もの皆さんがいらっしゃる。そういう意味で、行政の対応、議会の対応もそうなんです、どうも市民の皆さんの即生活に密着したそういう施策が、靴の上からかゆいところをかくような、そういうもどかしさがある、そういうことなんだろうと思うんですね。そういう意味でいきますと、議会も、権限、予算はないけれども、しかし、宮前区の課題は宮前区の皆さんと一緒に解決するんだと、そういう徹底した地方分権の仕組みづくりは進めていきたい、そういう思いは議会としてももちろんあったわけでありませう。

ただ、その中でいろいろ議論されまして、先ほど佐々木参与は見切り発車という言葉をしたんですが、見切り発車という部分は実は決め切れない。実際、議会としても行政としても決め切れない、そういう部分が実際行政区の分権、そして、権限、予

算を持たせることの難しさだと思うんですね。そういう意味でいきますと、課題整理等を含めて、本当にこの立派な冊子が、また、それから整理された課題整理が、極端な言い方、行政職員の手を借りずに区民会議の委員の皆さんがまさに全部つくり上げる、そういうことができ、私は本当に名実ともにしっかりと自立した、地に足のついた区民会議になるのだろうと、そんなような感想を持っております。道は遠いと思えますけれども、ぜひそういう方向で皆様にご努力いただいて、議会としてもそういう方向でしっかりとサポートさせていただきたいなと思っております。

1つこういう報告書、出来ばえはよくできるんですね。これは行政職員の皆さん一生懸命やっておられるから、それは自分たちの成果というものをそこに入れたいから、結果としては非常にいいものができると思うんですが、本当にこの中身が実際中身のとおりに地域でできるんですかというようなことが第2期の問題なんだろうと思うんですね。特に私なんかは、持田参与と住まいが近いものですから、山坂の多い地域でコミュニティバスを走らせたい、そんなようなことを、山田先生いらっしゃいますが、一緒にやっているんですけれども、行政の考える制度設計と私どもが提案する制度設計はやっぱり合わない、そういう問題もあるんですね。そういう意味でいきますと、今、野川南団地はやってはいただいているけれども、区民会議のテーマとして、そういう具体的な地域交通、コミュニティ交通、コミュニティバスのあり方、そういうものが乗っからなかったということについては非常に残念に思っておりますし、あともう一つ、市民の皆さんに集まっていただく場所、物理的な場所がないと。そういう中で私はもっと率直に、自治会・町会のお持ちになっている、そういう会館の地域に向けた積極的な使い方とか、そういうような議論もしていただければよかったのかなというような気はしております。

いずれにしても、私どもも議員団として、毎年予算要望しているんですね。それについての回答も区役所や当局からも来るんですが、やっぱり議会としてどういうテーマを予算要求、予算要望しているのか、そういう部分でのすり合わせみたいなことも逆にやらせていただいて、区民会議の皆さんが一生懸命出していただいた1つの方針と、私ども議会のほうがふだん取り組んでいる中身と、ある種どこかですり合わせをする、そういうこともあって、そこにまた行政の皆さんからのノウハウや力もおかりして、総体として宮前区が本当に市民が主役のまちづくりを進めていく、そのような仕組みづくりにこの区民会議、逆に議会のほうからは大きく使わせていただくといいですか、勉強させていただくという一つのスキルにさせていただければいいなと思えます。

いずれにしても、議長にもご配慮いただいて、私どもとの話し合いの機会等もつくっていただきまして、それについては本当に御礼、感謝申し上げたいと思うんですが、またぜひ次期以降も議会とも意見交換する機会をつくっていただけるとありがた

いなと、また本音の議論ができるんですね。そういう機会をまたつくっていただけるとありがたいなと思います。

長くなりました。ありがとうございました。

小林委員長 きょう、参与の先生方、ご出席は少ないのですが、参与の先生方それぞれにご意見をお聞きしたいというふうに思いますので、文書でお問い合わせをしたいというふうに考えております。さらにもう1回、参与の先生方に、最後ですので、改善すべき点についてたゞいま織田参与からかなり具体的にいろいろお話が出ましたけれども、もう1度、厳しい意見、改善すべき点ということがいろいろご提案いただけることが、次の第2期に向けてのいい糧に、改善する糧になると思いますので、遠慮なしに言っていただいたほうがいいかなというふうに思いますので、持田参与、何か厳しいご意見でもお聞かせいただければと。

持田参与 厳しい意見と言いますよりも、これは第1期ですから、まだまだ模索の段階であるのかなと思うんですね。ですから、これから回を重ねるごとに、もっとすばらしい会議となっていくのかなと思うんですけれども、せっかくここまで議論をされて、こういう取りまとめができました。ですから、この席での取りまとめということではなく、できれば、区民の方々にどのような広報活動ができるのかな、また、区民会議がこういうことをいろいろな部分では見聞きができるわけでありましてけれども、先ほど来お話がありますように、なかなか区民の方々、幅広くとなりますと、そこまではいかないのかなと思うんですね。ですから、なるべく幅広く、こうしたことが広報ができ、かつ区民会議でこのような議論がされ、こうした集約が今されておりましてよ、活動も地域でなされておりまして、そういったところへ少しでも区民の方々が目を向けていただけるような、また、区としてこのような方向性があるよ、こういう部分が区民がそれぞればらばらの状況でなくて、少し一体感が持てるような共通認識が持てるような、そんなような状況づくりが私はここのところ大切なのではないのかな、そんなふうに思っております。

そういった点は私どもも地域の中で努力したいと思っておりますし、行政を通じても広報していただくこと、また、そういう媒体、いろいろお考えいただくことも必要であるのかなと思っております。これまで取りまとめでいただきました行政の方々にも心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

小林委員長 それでは、山田参与、何かご発言いただけますでしょうか。

山田参与 私は、先ほど、あっ、そうだ、このことも言ったほうがよかったかなと思ったことが1つございました。それは委員の皆さんがこうやって参加していただいて、先ほど来課題をチョイスして、それをきちんと審議されてきた。いよいよこの中で、こういうふうになれば少しは課題を解決する方向性が見えてきたという中で、今度、協働の仕組みというものをつくっていく、どうやってみんながかかわってやっていくこ

とが大事なのかということをお話していく部分というのはすごく重要だと思うんですね。コミュニティになるんだと思いますけれども、子育てはこういうふうにやってみましょうよという場というのでしょうか、あるいは高齢者もあちらの地域ではこういうことをやっておりますよ、防災についてもこうですよというような、お互いに、今、持田参与のほうから広報の充実というお話がありましたけれども、そのとおりだと思います。ですから、私も先ほどたよりだけでよろしいのかな、目にとまるのかなという思いもしているんですけれども、それを幾重にもいろいろな形でやっていることのすばらしさ、あるいは逆に言うと、私たちが気がつかないことに対するこの地域の不自由さ、課題というものも、そこからまた得ることができるのかなというふうにも思いますので、参加と協働の協働という仕組みをどうやったらつくれるかということをお話のときに、ある意味、行政と私たち区民がかかわっていくという協働もありますけれども、その中で区民会議に参加している皆さんと、今度は地域にいらっしゃる方々との協働作業ってどういうふうに行うかということも具体的に考えていくということも大事なのかなというふうに思っております。その辺のことを真剣にまた次期やってまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

小林委員長 ありがとうございます。佐々木参与は何か追加発言はございますか。

佐々木参与 こちらにいらっしゃる皆さんは、大体の方が団体を代表される方だと思うんです。その団体それぞれの代表の方たちの後ろにいらっしゃる多くのメンバーの方たちともう1回課題だったり、いろいろなものを整理していてもいいのかなというふうに。なかなかこちらにいらっしゃる皆さんが、どうしても個にしか見えない。団体の代表の方なだけけれども、その団体の中で何か意見をまとめられているというわけではなかったようなところも拝見していたので、もちろん団体のやっていらっしゃることを共有化させていながら広げていったことももちろんあると思うんですけれども、やはり区民会議を広げる一つの手法として、ぜひ皆さんの後ろにいらっしゃるいろいろな団体の方たちとの区民会議との連携というものをもう少し求めていきたいということと、あと、先ほど織田議員も言われていましたけれども、予算要望のところでもう少し議員団と一緒に区民会議が意見交換しながらやるということも今後必要になってくるのかなということをお話しました。

小林委員長 太田参与は追加の発言はよろしいですか。

織田参与はよろしいですか。

織田参与 これはなかなか行政の皆さんのほうから言いにくい話だと思うんですけれども、これから地域の活性化ということで、すぐ自治会・町会の皆さんにいかにお世話いただくかという話があるんですが、実際、自治会・町会の役員の皆さん、本当に大変ご苦労いただいている。それは私もよく知っておりますので、そういうも大変感謝申し上げますが、しかし、逆に地域のテーマを、例えば自主防災なんかもそうな

んですが、本当に今の自治会・町会の皆さんにお任せをするということありきでいいのかどうか。逆に言うと、今、自治会・町会がどういう現状で、どういうことができている、どういうことができない、そういうことのようなある種赤裸々なそのような議論をしていただける可能性があるのが唯一区民会議かなと、そんな思いもしておりますので、きょうも自治会・町会から代表の方もいらっしゃいますので、大変失礼に存じますけれども、逆に率直な悩みを打ち明けていただくようなことがあってもいいと思いますし、その意味で地域のコミュニティの活性化の一つの点検の大きな要素になると思いますので、そんなことも老婆心ながら申し上げさせていただきたいと思いません。

小林委員長 参与の先生方、ありがとうございました。

それでは、ただいま参与の先生方から非常に短い時間ですが、いろいろ投げかけがありましたけれども、委員の方々からご発言はございませんでしょうか。

高木さん、ご発言はありますか。

高木委員 先ほどから割といろいろな意見が出ていると思うのですが、自分の中のまとめなんですが、ちょっとまた話がずれるかもしれませんが、専門部会というのがかなり意見が煮詰まった形で全体会議のほうに出てきているものから、ここで話し合うものというのがフィードバックされてまた専門部会で話し合われていることよりも、専門部会で9割以上がたまって、ここで出てきて、それにプラスするものというのはすごく少なかったように感じるんですね。先ほど長谷川さんも専門部会のお話をされていましたが、自分自身も例えば子育ての部分にはもう少し委員として入っていればよかったのかなというのをここで非常に思っていて、実際ここでもう少し具体的な内容が専門部会のほうにフィードバックされてまた出てくるのかなというのが余りなかったような感じがするんですね。ほとんど専門部会でまとまれた意見が全体会議の中でも通ってしまっているというようなことが多かったのも、その辺が自分としては残念だったなというふうに、今ここで個人的な意見として感想を言うとそういうところになります。

小林委員長 目代委員。

目代委員 先ほど佐々木参与のほうから、私たち、区民会議の代表は各団体の代表から選出されているというところで、私も民生・児童委員の中から選出されているんですが、子ども部会ということで、子ども部会のお話を進めていく上で、私はどの立場で発言すればいいのか、これは同じメンバーの中にも悩んだ方が多かったんですね。私の個人的な意見、また、民生・児童委員としての地域でのかわり方の意見というのが全然違うんですね。ですから、この子ども部会とか、いろいろな思いが個人の意見で言っているものが多い。実を言うと民生・児童委員はこうなんですよという話の中から発していくので、団体をバックにした総括な意見で団体も取り入れた区民会議

での言うことは、私自身はできなかつた部分が多いです。やはり民生・児童委員の中でも、高齢者から子育てという範囲の広い中で、子育て支援のことを私は民生・児童委員協議会に戻って、皆さんにこうなんですよという投げかけをやりますけれども、それでその賛同がもらえるかといったらそうでもないという部分があって、これはほかの委員の方たちも同じジレンマがあつたんだと思います。ですから、団体の代表ということで、なるべく団体の意見をというところで、区民会議を理解してもらおうという働きかけはたくさんやりますけれども、じゃ、その団体の総意で課題解決とか、そういうのを一緒にやっていくというのにはちょっと難しい部分があつたと思っております。

小林委員長 何もご発言されていない方はどうですか。松本さん、どうですか。

松本委員 ちょっと感想的なことになってしまうんですけども、提案した内容に関しては、行政の方々、本当に動いてくださって、課題解決に進んでいるなというのはすごく感じています。子育てに関してなんですけれども、やっぱり広過ぎてしまって、課題ですべて議論はできていなくて、提案もすべてできていたわけではないと思っています。取りこぼしてしまった課題を次期にどうやってつなげていけばいいのかなというのがちょっとまだ課題として残って、報告書をつくって、皆さんおっしゃっているようにそれで終わりではないということで、これからも見守り続けなければいけないなというものは残っていると思います。

あと、出ていると思うんですけども、多くの市民を巻き込むということは、課題の大きなことだなと思っています。私も、藤沢さんがおっしゃるように、スーパーでそこら辺で買い物している主婦なんですけれども、やはりファミレスとかでママ友と話をしている、「区民会議だね」という話をすると、正直、引かれちゃって、区民会議という名前だけかたい、ああ、大変だねという、人ごとという温度差というのを日々感じるがあります。区民会議自体、一生懸命「区民会議だより」とか市政だよりとかでは出ていますけれども、PR不足とは言えないかもしれませんが、やはり市民に実際、自分たちの問題なんだよということがまだまだ伝わっていないのかなという温度差、それがまた担い手不足という問題も正直あるのではないかなと。区民会議、男性女性いらっしゃいますけれども、女性が半分いるわけなんですけど、まだまだ女性とか、母親、子育て中の当事者とかがなかなかこういう場に出てきてとか、こういうところで傍聴したりとか、自分たちの問題だという意識がまだまだ少ないのではないかと、それを温度差を1度上げるにはどうしたらいいのかなというのを感じています。ここで皆さん議論して、こういうことをしているんだというのをこれからどうやって伝えていかなきゃいけないのかなというのを、もちろん「カンガルー通信」に書いたりとか、子支連の発行する「かわら版」に委員の立場として普通の主婦の立場として書いてはいたんですけども、まだまだ伝わらないな、どうやって

やったらいいのかなというのは大きな問題だなと感じています。

小林委員長 松井さん、いかがでしょうか。

松井委員 まとめた資料は、とてもよくまとまって、わかりやすくなっていると思うんですね。自分がこの委員になって参加していますからね。ただ、これを、先ほども出ていましたけれども、市民の皆さんに読んでくださいといっても、読んですぐわかるものでもないし、実施できないと思うんですね。ただ、それをどうかみ砕いて、自分たちの地域とか、自分のかかわっている組織で、それを応用問題として上手に優しくというか、楽しく結びつけていくかということが問われていると思うんですね。僕なんかそういうことでは、こういうところで学んだものを頭にインプットして、それをしながら、表現の仕方はもっと違うプログラムでやるんですけども、そういう中にこういうことの入っている考え方とか手法というものを上手に応用してやると、結構広がったり、深まったりする要素があると思うんですね。だから、そういうことをそれぞれのかかわっている皆さんは、自分たちの組織でいかに活用するかということ、分野もいろいろ出ていますから、全部が一遍に活用できるわけではないけれども、何かきっかけがあったときに活用できるということもあるのではないかと思います。

それともう一つ、コミュニティ部会で、小学校区のコミュニティということが出ていました。これはすごいヒントだと思うんですね。コミュニティは小学校区だけではなくて、課題によっては中学校区でもいいと思うんですね。とりあえず僕なんかやろうとしているのは、中学校区でいろいろなことで試してみたいなということがいっぱいあるんですが、1つの中学校区でも、宮前区、20万の都市だと8で割って2万5000人ぐらいの人口がいるわけですね。そういう中で地域を見つめるということはどうと大事だけれども、今までそういうことが余りなかったような気がするんですね。それが自治会単位であったり、または全体だと宮前区になっちゃうということだから、もうちょっと中学校区とか、小学校区ということの中で、こういうことを頭に入れて課題を集めていくと、とてもいいのかなというふうに思ったりします。

それからもう一つ、区の組織として、まちづくり協議会というのは僕も理事長としてやらせていただいているんですが、浅野さんもまちづくり協議会に出ています。中間支援機能を持った組織として、役所でもこの10年来、かなりのお金をかけてまち協を活性化しようと試みていただいているんですが、なかなか理想どおりに機能できないところもたくさんまだあるのではないかと思います。そういったところが、諸団体とともにこういう課題を頭に入れて、そういうところが中間支援センターとして動いて、中学校区ぐらいでいろいろな活動ができれば、もっともっと実際に実施しやすくなるのではないかなと思うんですね。その辺が課題かなというふうに思うので、どう活用したらいいかを今後研究していければなと思います。

小林委員長 福本さん、お願いします。

福本委員 今回、総括をしていただいたことは、私たちにとって大変よいことだと思います。今まで過ぎ去った各部会や何かでもって、あれもすればよかった、これもすればよかったというふうにいるいろいろなことを考えてきたんですけれども、それがきょう総括があることによって、実際にまた改めてこれを見直していくということですね。今まではやはり忘れたことは随分あって、でも、結局、今、総括の中身を見ると、これもまた思い出して、これを今度はもっと区民にわかりやすく実践していくということが大事ではないかと思うし、それと、参与の先生方から先ほどお話があったように、我々が部会や何かでもって出なかったことでも、発言していただいたことは、これからの参考になるのではないかと思います。大変ありがとうございました。

小林委員長 長谷川さん。

長谷川委員 先ほどの話のとおり、普通こういう報告書が出ると、それでおしまいになって、大きな事業の場合には事業監査というのは必ずあって、実際にやっているかどうかというのを監査する人たちがいるんだけれども、多分この話は、監査することはないんですね。だから、あとは区民との協働作業、実践あるのみ。それでどういうふうになっていったかというのは、その報告書というのは多分出ないと思うので、これで終わりかなと。私も防災でちょっとやりましたけれども、それから、鈴木恵子さんのテレビも見させていただきましたが、区民の方たちもやっぱり皆さん待っているのが多いですね。何かきっかけがあると必ず参加してくれるということが、お話でもわかったし、私も自分の受け持ちの避難所会議というものを恐る恐るやってみたら、やっぱりちゃんと来てくれた。そのときにいろいろな会話ができるので、多分、それが自分に対する責任の監査かなと、こういうふうに思っています。だから、やっぱりこの監査というのはいかがなものかなと思いました。

小林委員長 鈴木さん、どうぞ。

鈴木(和)委員 先ほど佐々木参与のお話の中で、「区民会議委員の中に団体の代表の方がおられますので、その団体組織の活動内容を活動力として幅広く区民会議に活用しては良いのでは・・・」という御意見がありました。私は宮前区文化協会の代表として参加しております。内容は、舞台部門・バレエ・展示・演奏・作動と80団体が活動しております。伝統文化伝承・地域文化向上・生涯教育の場とともにコミュニケーションの場として活用しております。来年度は文化活動も取り入れていただきたいと思います。宮前区は古代遺跡・国重要文化財の神社仏閣も多く、今年度観光協会設立で郷土文化の振興に向かっておられます。区民会議活動の中で文化と共に取り入れるのもよろしいかと思います。2年間数多くの学びをありがとうございました。

小林委員長 末澤さん。

末澤委員 私も、さっき松本さんがおっしゃっていたように、子育て中のスーパーで買い

物している一般の母親なんです、そういう立場の私と、今ここに来ている私というのギャップがあるんですね。だから、持ち帰って区民会議の中で発言している私というのが、個人の意見で言っているんですけども、ふだんおしゃべりしている中の内容というのをここで話しているのか、お母さんたちの思っていることを話しているのかというのが、私にとってはとてもジレンマで、言っていることだけでいいんだろうかというのがありましたので、今回、区民会議の提案の中で調査というのを実施していただきました。調査の中で、保健所に健診にいらっしゃるお母さんたちへの調査をしたことによって見えてきたものというのがまたあるんですね。そういった結果が出ておりますので、そういった報告をまた受けて、区民会議というのは、この2年間で第1期が終わりますが、2期以降にもぜひその成果というのを引き継いで続けていていただきたい。課題というのは、常に変わっていくと思うんですね。例えば今の報告とか施策を「区民会議だより」で目にしたときに、見た人が、その課題はどこから出てきたのか、そして、どういうふうな審議を得たのかというのが、何となく遠いものを感じると思うんですね。ですから、さきに鈴木委員がおっしゃったように、アンケートという形もいいと思うんですけども、例えばこういった課題はここで受け付けています、受け付けているところはどのような形がありますといったことが常に載っていると、自分たちにも課題提案ができる。ただ、それを受け付けるほうは大変になると思うんですけども、入り口が常に開かれているということも必要なのではないかな。そうすれば少しは身近になるのかなと。難しい課題だと思うんですけども、もう少し門戸を開いて、だれでも課題提案ができる、また、参加していくこともできる、傍聴もしやすいものにもっとなっていくというふうになっていくといいなと感じました。

小林委員長 亀ヶ谷さん、もう少し時間がありますので。

亀ヶ谷委員 私は意見として2つこの中にも書かせていただいたんですけども、1つは、次年度、区民会議の委員を選ぶときの選び方というところで、なかなか難しいなと。公募しても、実際、公募に募集された方が今回非常に少なかったと。でも、意見を見ると、やはり広い範囲から集めたほうがいいんだということで、公募を充実させたほうがいいという意見、当然そうだと思うんですが、なかなか現実的には難しい。団体というところになると、区民会議の意義も含めて、そこまでの認識を持って、きちっと団体から出てくるような選出の仕方を徹底させないと、実のある区民会議にもなっていないというふうに思っておりますので、その辺が次年度委員を選ぶときの大きな問題点かなというふうに感じております。

それから、もう一点意見として書かせてもらったんですが、例えば何かテーマを決めて実行していくにも当然予算というものがついて回るわけなんです、先ほど織田参与がおっしゃったことがまさにそうだと思うんですけども、自分たちがテーマを

決めてこういうことをやっていこうということと、それから、議会のほうで予算を決めて、この部分をやっていく、行政のほうでこの点について進めていくということと、3つのすり合わせがうまくいっていないと、少しずれている方向になってしまうと、なかなか実現性が難しくなってくると思うんですね。ですから、今回、自分の理解の問題かもしれないけれども、区民会議でテーマを話し合っていく中で、じゃ、実効性とか実現性の可能性の問題なんですけれども、この辺のところもう少し具体的に見えてくると、やっていく上でも力が出るのではないかと思うので、内容的なものをもっと少し開示していただくような形でテーマを決めて、2期目はやっていただけたらありがたいなというふうに感じておりました。

小林委員長 浅野さん、いかがですか。

浅野委員 特別にはないところで。いろいろと勉強させていただいて。私はよく言われて困ったのが、地域の課題をと言われて、自分で考えたときに、私、特にとというのは、苦情、クレームみたいなものはあるんですけども、自分でこれが課題で、これを解決することによって回りの人がいかにいい思いと言うと変なんですね、回りの人のために役に立つか、そういう発想というのは余りなくて、職業柄的なものでは範囲はあるんですけども、一般的に課題を出してくださいと言われて困ったんですけど、先ほど松井さんのほうからちょっとあったように、私もまちづくり協議会に参加していて、そこでの中間支援組織での活動というのも同じなんですね。自分から率先してやっていくことというのは何がいいのかなと。とりあえずは今、市民活動の場づくりというか、借りられる会議室を調べてとか、そういうことを始めようということで、今、調査票の原型をつくったりとか、これからやっていくんですけども、そういうような活動がこの区民会議の中にもあるような場づくりの、あるいは利用できる場所のスペースの話ですね。そういうのに利用できていったら、結びついて、少しはいいのかなと思うんですけども、ただ、課題と言われたときに、それをどうやって解決すればいいのかまで、何となく道筋をつけてから課題提案しないといけないような雰囲気があったので、自分で思いつくところがなくて、出てきて余り役に立たなかったのかな、申しわけないことをしましたと思って反省しております。

まちづくり協議会の中においても、あなた、行ってきなさいということで出させていただいたんですけども、この区民会議であったことの報告が、最初のうちはこの話がありましたとかとしていたんですけども、だんだん報告することというのが、実際に団体の活動とちょっとずれているというか、一致しないところが多いので、報告しても聞いてもらえないようなところがありまして、何となく報告をおざなりにしてしまって、団体推薦委員としての役にも立っていなかったな、任を全うできなかったと思って反省しております。これから、多分、団体でもそうだと思うんですけども、結局、団体がバックにあらうと、出てきたときには、個人の意見であらう

とか、団体のほうにも、こういうことを言ってきたよと報告することによって、団体の意見になっていくのかなと思いますので、個人的な意見でもいいのかなと、そういう思いもあります。

小林委員長 あと1～2分ありますが、三谷さん、いかがでしょうか。

三谷委員 それでは、先ほど参与のお話があった中からヒントがありましたので。私、過去に戻るよりはあしたを語ったほうがいいのではないかとということで、明日のコミュニティ部会で議論し尽くせなかったことがありましたので、ちょっと触れてみたいと思います。

実はコップの中の嵐ということでは、嵐と言うと何か悪いことのように表現されますけれども、コップの中の嵐には、宮前区内の活性化議論だとか、課題だとか、審議事項とか、懸案事項とか、いろいろあると思うんですね。これは既に小冊子の中で十分語られておりますので、コップの外の嵐というのをイメージしてみました。それは何かといいますと、宮前区の外ではどういうふうに宮前区を見ているのかなと。あるいは宮前区の外では、川崎市、神奈川県、国全体で、国という、世界という大きな立場の中で我々の宮前区は存在しているわけでございますので、そういう外から見ますと、先ほど幾つか参与の方からヒントがあったんですが、明日のコミュニティ部会ということで終わるわけではなくて、地域というのは永遠だと思うんですね。したがって、企業ではゴーイングコンサーンという、継続企業体という言葉があるわけなので、地域も永遠です、したがって、2年間でここで終わるわけではございませんし、3年目、4年目、永遠に続くわけでございますので、そういう視点から言うと、例えば先ほどアップダウンが激しいという話がございましたので、これを解決する手法としては、あるいはコミュニティという中でも議論したほうがいいのかと。

あるいはたまたまきょう、お話しできる時間があつたらと思ってお持ちしたんですが、朝日新聞の朝刊に、川崎市の部局名、公害が消えるというのはごらんになりましたか。今までは公害部だったんですね。それが4月1日から環境対策部になる。イメージが変わってきたと思うんですよ。環境対策部になって何をやるかということ、地球温暖化対策などの環境問題全般への中核組織になるということなんですね。これは実は我々の宮前区をコップの外から見ますと、盛んに今、地球温暖化だとか、温室効果ガスだとか、CO₂とか、そういうことが毎日のように出ていますね。エコという問題が非常にクローズアップされております。アメリカのゴア元副大統領の「不都合な真実」という映画、皆さんごらんになったと思いますし、最近、渡辺謙がナレーターになっています「アース」という映画、これを見ると、まさに我々の地球がどうなるかというのが叫ばれております。そういう視点から言いますと、この先駆けと考えると同じように、エコも宮前区で先取りできないかなということで、エコタウン宮前ということコミュニティ部会の中で議論していただければ、新しい視点で区というもの

を見極めることができるのではないかなと。アップダウンが激しいということで、自動車とかバスということで、ガソリンを使わざるを得ない部分があると思いますね。それをどう解決していくかということも、エコロジカル、エコという問題の中につながっていくと思いますし、そういう視点でこれからまた新しい視点で考えていくのがよろしいのではないかなと思います。

もう1点、話が長くて大変恐縮なんですけど、これは直接環境とか何かということではなくて、「川崎産業観光読本」というのをごらんになったことはありますか。これは実は検定が始まるわけですね。宮前区観光協会ができましたけれども、これ、若干リンクされていると思うんですが、このページの裏のほうを見ますと、残念ながら、恥ずかしい限りの話が出ています。川崎市内の主な産業観光資源物というのがあって、ほかの区はいろいろな資源が載っているんですが、宮前区は何も載っていないんですよ。これは残念な限り。フットサルのフロンターレだとか、植木の里めぐりだとか、あるいは宮崎台駅にある電車の博物館だとか、宮前区にいろいろなものがあると思うんですね。誇れるものがありながらここに載っていないということですから、やっぱり我々のアピール力が乏しいのではないかなということですから、あわせてこれからこういう中にも宮前区が語られるということも、コップの中で見てはわからないわけなので、ぜひ外から見るような視点でいろいろお考えいただければということで、意見を申し上げました。

小林委員長 永野さん。

永野副委員長 次期への課題というか、これは先ほどから参与の先生方もおっしゃっています、制度設計の問題だと思うんですね。制度設計の中で提案した後、それをどう実現していくかというのは細かく設計されていないですね。議論したものを区長に報告して、区長が解決策を具体策をつくるというところまでがされていて、それを市民協働でやっていく制度設計がされていない。せっかく提案して、これからそれを実現していくために、協働作業、市民同士の協働、市民と地域と行政と、その3者の協働、そういった協働で取り組む仕組みづくり、それを早急につくらないといけない。それは皆さんいろいろ意見が出ています。今までは町会・自治会に丸投げしていたわけですね。そうじゃなくて、町会・自治会じゃなくて、市民活動団体、まちづくり協議会を初めとして、小学校区、中学校区でいろいろ活動している団体を受け皿とした実践の方向づけというか、そういったものが必要だろうと。市民協働の提案を受けてみんなで作るというのを、去年、映像とグリーンフォーラムですか、それと落書きを消すという3つのあれがありましたけれども、ああいった公募みたいな形で受け皿組織を募集するとか、どこでも手を挙げて実践をやるような入り口をつくる必要があるだろうと思いますね。それをやはり地域の顔の見える範囲、歩いていける、集まれる範囲ということで、小学校区、中学校区、そういったものを中心にして実践していく。

この問題はコミュニティ部会が取り組み始めていましたので、ぜひコミュニティ部会については、今年度も継続していただきたいというふうに思っています。

小林委員長 川西さん。

川西副委員長 皆さん既にいろいろおっしゃったし、後ろにもそれぞれのご意見はあるんですけれども、私は本当にこの区民会議というのがどういような実のあるものになるのかなというようにことで参加させていただいて、よくできたなというのが実感です。この報告書を最初見たときに、非常によくできていて、こういうレイアウト一つとっても、どうしてこういうレイアウトになったのかという思いが、委員さんのほうと、行政の職員のほうとのまさに共同作業でつくられたところもあって、私はこの一冊の報告書の中に込められたみんなの熱意と、いろいろ試行錯誤した迷いも含めてですけれども、こういうようなものが次の期につながっていけばいいなと思いました。いろいろな人たちと出会っているいろいろお話をします。私なんかも団体出身ですけれども、確かに団体委員ということで出てきているけれども、ここではもっと広い見識を持って全体を見通そうということがまず最初のお約束ごとだったので、そのあり方と、今回ここでやった意見を広く集約したり、あるいはここでみんなでまとめたことを広く発信するというのはまたちょっと違う次元の話だと私は思っているの、そこら辺、私たちが学んだ取組の作法というか、宮前がつくったみんなの委員の取組作法が、今後も続いていくように、本当に切に思っています。

私は企画委員でもありましたので、何度かよく会議にも出させていただきましたけれども、学ぶということだけではなくて、知り合えて楽しかったという思いがあったからこそ、ほとんど欠席もせずここまで来たのかなと思いますので、この状態が続くことを望んでいます。

小林委員長 それでは、ただいま委員の方々、参与の先生方からいただきましたご意見につきましては、総括報告書に取りまとめていきたいと思っております。この総括報告書につきましては、3月に予定しています区民会議フォーラムを経て、3月末日に最終的にまとめていきますので、取りまとめができましたら皆様にお送りしたいと思います。この第1回区民会議の総括報告につきましては、そのようなスケジュールで企画部会と事務局のほうとで取りまとめをさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。ありがとうございます。そのようにさせていただきます。

2 議 事

(2)区民会議フォーラムについて

小林委員長 それでは、次に、議事2、区民会議フォーラムについてに移りたいと思います。既に3月22日の土曜日の開催についてはお知らせをさせていただいております。当日の内容につきましては、企画部会で協議をいたしましたので、川西副委員長から

説明をしていただきたいと思います。

川西副委員長 皆さん、お手元の報告書（素案）の2ページをごらんください。先ほどから広報活動が大事だというご指摘があったとおり、去年に引き続いて、去年も3月21日、祝日にやりました区民会議フォーラムの第2回目を3月22日、午後1時から4時まで、お手元の資料2と書いてある半截があると思いますけれども、場所は宮前区役所4階の大会議室ということで開催しようではないかと、企画会議からのご提案を申し上げたいと思います。

まず最初の内容なんですけれども、ここに書いてありますように、ことしは1部と2部というふうに分けまして、区民会議からの報告と来場者とのディスカッションを1時間半、それから、第2部で講演会ということで、こういう2部構成に案として出したいと思います。日程とか時間的な次第はそこに書いてあるとおりです。今回、第1部のほうは、区民会議から区長への提案ということをご各部長、特に明日のコミュニティと防災部会からそれぞれ部長から報告をして、その次には、区民会議からの提案に対して、区役所の取組の方向性をということで、大下区長からお話をいただく。その後は第1期区民会議の総括報告についてということで、永野副委員長からご説明があって、その後が来場者とのディスカッションということで、パネルディスカッション的な進行になります。その後、第2部の防災講演会、こちら「地域コミュニティと防災」というテーマで、川崎市の危機管理室にいらっしゃる市の防災企画専門員であります、もうおなじみですけれども、細川さんに講演をしていただくという流れになります。細川さんへの依頼内容なんですけれども、第1部の区民会議からの報告と区役所の取組の方向性、あるいはその前にあったディスカッションの内容を踏まえて、防災における地域でのコミュニティの重要性や日ごろの備えの重要性などについて講演を依頼する予定ということです。特に区民会議から地域防災の提案が出ておりますし、あるいは地域のコミュニティづくりに関する提案も出しておりますので、それぞれの提案に対しての講師の感想とか意見も踏まえたお話をさせていただければいいかなと。もちろんその後、災害時の緊急速報がテレビだけではなくてラジオも始まりますので、そこら辺の最新情報提供も依頼するという、こんな感じを今のところイメージしております。これについてご検討いただきたいと思います。

小林委員長 ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして何かご意見がございましたらお願いしたいと思います。

長谷川委員 これ、パラでやるんだっけ。7番、13時10分から13時25分が、これは13時10分には区長挨拶が終わった後、これに入るとということですか。これ、入れかえるだけですか。

小林委員長 それは直していただきたいと思います。

事務局（田邊） 時間割というか、時間配分のところで間違っ書いてしまいました。そ

れは修正させていただきます。

小林委員長 それ以外に何かご意見はございますでしょうか。

それでは、特にないようですので、3月22日の区民会議フォーラムにつきまして、フォーラムのチラシを作成次第、委員の方々にお送りさせていただきます。それぞれの所属している団体への配付をお願いしたいと思います。当日、それぞれの委員の方々も大勢ご出席いただきたいと思いますので、参与の方もぜひご出席いただければありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

三谷委員 これ、1時から始まって4時ですね。非常に長時間にわたるんですが、こういうのは大体どこかでコーヒブレイクみたいなものがあるはずなんですよ。

小林委員長 これは講演会の前にちょっと休むんでしたっけ。講演会の前に10分ほど予定がありますかね。そういうことでよろしいでしょうか。 そのようにフォーラムを開催させていただきます。皆様のご協力をお願いしたいと思います。

3 報 告

(1)平成20年度宮前区協働推進事業計画(案)及び区の課題解決に向けた取組(案)について

(2)川崎再生フロンティアプラン新実行計画策定資料について

小林委員長 次に、平成20年度協働推進事業計画(案)及び区の課題解決に向けた取組(案)と新実行計画、区計画について一括して事務局から説明をお願いいたします。

事務局(田邊) それでは、資料3、資料4につきましてご説明させていただきます。

まず、資料3でございますが、平成20年度宮前区協働推進事業計画(案)でございます。こちらにつきましては、前回第3回の区民会議におきまして、事業の内容等につきましては一応ご報告をさせていただいたところでございますが、今回は予算内容もある程度かたまってまいりまして、今後、3月の議会におきまして審議はされるわけでございますが、その予算内容を含めましてご報告をさせていただきたいということでございます。

まず、こちら、1、安全で快適に暮らすまちづくりに関する事業でございますが、特に がついているものが新規事業でございます。1の(2)でございます区境・市境を越えた安全・安心まちづくり推進事業につきましては171万5000円という予算を計上してございまして、防犯グッズ等の購入等を予定してございます。また(4)防災意識普及啓発事業につきましては、これは区民会議の課題でもございまして、こちらにつきましては200万円の予算をとりまして、防災推進員の育成とか、防災ニュースの発行に充てたいというふうに考えております。

また、2番目、幸せな暮らしを共に支えるまちづくりににつきましては、(1)にございます高齢者健康づくり支援事業が区民会議からの課題でございまして、こちらにつき

ましては10万3000円の予算を計上してございます。

3、人を育て心を育むまちづくりの事業の中でございますけれども、(1)、(2)、(6)が区民会議の課題を受けた事業でございます。子育て支援事業につきましては56万3000円ということで、子育て情報誌の「子育てかわら版」を年2回程度発行していきたいというふうに考えています。また、(2)の親と子の子育て応援セミナー事業につきましては54万2000円という予算を計上いたしまして、5月から12月にかけて、年12回のセミナーを展開していければというふうに考えております。(5)は がついておりますが、地域スポーツ促進事業ということでございまして、9万4000円の予算という形になっております。(6)でございますが、シニアライフ支援事業ということでございまして、179万6000円の予算をかけまして、地域デビューのきっかけとなる講演会、これは先週2月11日に実施いたしました。こういった事業とか、相談窓口の充実等を図っていきたいというふうに考えております。

5番目でございますが、個性と魅力が輝くまちづくりにつきましては、(1)にございますとおり、新規事業といたしまして、地域の魅力発信事業ということで、22万7000円の予算を計上いたしまして、観光協会等とも連携しながら、区の魅力発信をしていきたいというふうに考えております。

また、裏面を見ていただきますと、6番でございますが、参加と協働による市民自治のまちづくりの分におきましては、(5)となっております、市民活動支援拠点ネットワーク事業ということで、新規事業でございます。525万1000円の予算を計上いたしまして、区民活動の拠点となる場所の整備に充てたいというふうに考えております。

それから、7、その他でございますけれども、こちらの中では特に(3)の緊急対応費ということで、約250万円程度留保するような形をとってございます。

また、その下、区の課題解決に向けた取組ということでございまして、今まで申し述べました協働推進事業費5500万円とは別に、事業局等とも連携しながら、区の課題解決に当たっていくという予算でございます。例えば1番でございます、東名川崎インターを川崎の北の玄関口と位置づけまして、その周辺再構築のためにさまざまな看板や誘導サイン等の検討ということで160万円、それから、4でございますが、新規事業といたしましては、商店街と連携した地域コミュニティ促進事業ということでございまして、これは区民会議の課題にもなっておりますが、これにつきましては92万3000円の予算を予定してございまして、区の課題解決に向けた取組につきましては、合わせまして5事業で900万円程度の予算を予定してございます。先ほど申し述べましたとおり、これらにつきましては今後の議会の中でご審議いただくということになっております。

資料3につきましては以上でございます。

続きまして、資料4でございます。川崎再生フロンティアプラン新実行計画策定資

料ということでございまして、こちらにつきましても、昨年の秋来、タウンミーティング等々に向けまして、ご報告、ご説明をさせていただいたものでございますけれども、最終的な素案がかたまりましたので、こちらのほうにご提示させていただいております。その中で宮前区の部分ということでございます。

ページで申しますと、下に357というふうに振ってございますが、この357ページ、358ページが協働推進事業及び区課題解決事業、区民会議運営事業といった、区が主体的になって取り組んでいく事業の中でも、特に目玉となるようなものをこちらのほうに記載するとともに、今後3年間の事業内容目標が書かれているものでございます。

また、359ページにつきましては、区内における主な分野別事業ということでございまして、こちらにつきましても、事業局のほうがどちらかという主体的に取り組むような事業で、宮前区内で主に展開するというものがこちらに整理されているものでございます。359ページと360ページでございます。

以上、ご参照いただければと思います。

小林委員長 ありがとうございます。ただいま事務局の説明に関しまして何かご意見がございましたら。特にございませんか。よろしいでしょうか。

4 その他

小林委員長 それでは、その他ですが、何か事務局からありましたらお願いいたします。

事務局（田邊） それでは、その他ということでございますが、お手元に配付させていただきましたチラシ、資料等の中から、第6回民自治創造フォーラムにつきまして簡単にご報告させていただきたいと思います。こちらの赤いA3判のチラシをごらんいただければと思います。

3月1日、2日でございますが、土橋小学校におきまして、こちらにもありますとおり、「出会う知り合うつながる」ということで、第6回市民自治創造・かわさきフォーラム、宮前区民フォーラムが開催されます。こちらの中で、見開きになっております、中のページをごらんいただきたいと思います。特に3月1日の土曜日でございますけれども、12時30分から17時までというタイムスケジュールの中で、13時15分から15時まで、みんなで考えよう「区民会議など自治の取り組みを考える」というパートがございます。この部分につきましては、川崎市の自治推進委員会が中心となりまして、各区の区民会議の取り組み状況等を報告したり、意見交換を行うという企画になってございます。先ほど委員長からも若干触れられたかと思いますが、7区の区民会議の委員の中から何人かの方にパネラーとしてこちらに参加いただきまして、さまざまな意見交換をしていくという企画になっております。皆様方にも自治推進委員会のほうからご案内の文書が昨年末に行ったかと思いますが、宮前区といたしましては、最終的には委員長がこれにパネラーとしてご参加いただけるという

ことになりましたので、ご報告をさせていただくとともに、ぜひ皆様方も傍聴という形になりますが、参加していただきまして、意見交換をできればというふうに考えております。

これにつきましては、明日、中原区のほうで、パネラーになられる各区の区民会議の委員さんが集まって、具体的な企画の内容等を詰めていくということになっております。また、そのほかにも、区内で活動している団体等の発表の場ですとか、3月1日ですと、「みどりの回廊ネットワークづくり」ですとか、2日ですと、防災関係、交通問題、「『中学生市民』が見つめるジモト宮前～区長と語る」といった、これは川崎市のイベントでございますけれども、宮前区で開催されるというところで、かなり宮前区に特化した部分もありますので、1日、2日、ご都合の許す方はぜひご参加いただければと思っております。また、さらに目玉といたしまして、2日は10時から西城秀樹のトークショーといったものも予定してございますので、楽しい1日になるのではないかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほか、配付資料といたしまして、近々開かれるイベント等につきましても配付させていただきましたので、ごらんいただきまして、興味のある方はご参加いただければというふうに考えております。

また、資料の中で特にブルーの資料「地域をつなぐ」というチラシがあるかと思ひます。これにつきましては、3月3日にこちらの同じ会場で、地域のつながりづくりということテーマで開催されるわけございまして、区民会議委員の鈴木恵子さんもこちらに参画されるということになっておりますので、こちらのほうもご都合の許す方はぜひご参加いただければというふうに考えております。

私からの説明は以上でございますが、区民会議委員の皆様、関与されている方が大勢いらっしゃるかと思ひますので、補足等をいただければと思ひます。

小林委員長 それでは、自治創造フォーラムにつきましてご説明いただきました。どうですか。

松井委員 今話された中で、「輝け命！！ みどりの回廊ネットワークづくり」ということで、これのチラシが別にできております。これ、挟み込まれておりませんでしたので、きょう余計にありますから、後ほど皆さんにあげますので、こちらのプログラムもぜひ関心を寄せてください。中学校区ごとにいろいろと緑の現況調査の発表があったり、それからあと、3月中旬にNHKでアースビジョンという映画祭があるんだそうですが、その作品の発表に先駆けて、新宿御苑からの検証ということで、東京のヒートアイランドということの映像も行いますので、ぜひ皆さん参加してください。

小林委員長 それでは、できるだけ大勢の方々の参加を期待しております。よろしくお願ひいたします。

次に、私のほうからもう1点ご案内ですが、3月22日の区民会議フォーラムの開催

をした後に、第1期区民会議の締めということで、委員と参与の方々、事務局の皆さんで懇親会を開きたいと思いますが、いかがでしょうか。終わってすぐということで、3月22日の4時から委員の方々、参与の先生方、それから、事務局の方々に懇親会を開きたいというふうに思っています。フォーラムを出席された後にぜひ懇親会を持ちたいと思います。よろしいでしょうか。じゃ、ご参加いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、本日、予定された議事を終了させていただきたいと思いますが、最後に、第1期最後になりました、委員長として一言ごあいさつをさせていただきたいと思います。

2年間の区民会議が本日終了となりまして、本当に皆様のご協力に感謝しております。ありがとうございます。私は自治条例に基づきまして、多様な区民の意見の要望を取りまとめ、解決を図るという区民会議を開催することには大賛成でありました。しかし、委員長として、区民会議運営に当たりまして、課題の採用及び収集方法、市民の意見の集約、提案型の会議を解決型の会議への議論集約、委員と参与の先生方との役割分担など、さまざまな悩ましい問題が多々存在しておりました。委員長として至らぬ点が多々ありましたことをおわび申し上げます。

今後、区民が自分たちの抱えた課題を解決するに当たりまして、解決するための区自治の向上を図るためには、大勢の有能な経験豊富な区民がこれからの区民会議に参加していただくことが大変必要なことだと思っております。そのためには、1期2年の区民会議の成果は必要不可欠であると考え、提案型の会議にしてはいけなく、少しでも解決型の会議にして、課題解決の実現にこだわったつもりであります。幸いにしまして、多士済々の委員の方々の的確なる提言、意見をいただきまして、事務方の協力で集約でき、区長に報告、提言することができました。そして、かなりの課題が解決に移されていることに、区民会議にかかわりましたすべての方々に謝意を申し上げたいと思っております。今回ご討議いただきましたが、資料7、第1期区民会議の改善すべき点として、委員の方々から意見が多々述べられております。第2期の委員の方々には大いに参考にいただき、区民会議を改善し、区民のために重要な存在に区民会議がなれるように願っております。大変至らぬ委員長でございましたが、皆様のご協力によりまして、このようにつつがなく終了できますことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。（拍手）

それでは、ここで進行を事務局に戻したいと思っております。よろしくお願いいたします。

司会（岩澤） 小林委員長、2年間にわたりまして、どうもありがとうございました。また、本日ご出席の委員、参与の方々につきましても、長時間にわたりましてご論議いただきまして、まことにありがとうございました。

それでは、最後になりますけれども、閉会に当たりまして、区長の天下より一言ご

あいさつを申し述べたいと思います。

区長 きょうも長時間、熱心にご議論いただきまして、本当にありがとうございました。

2年間、委員の皆様、そして、参与の皆様、この区民会議に熱い気持ちと貴重な時間を割いて参加をしていただいて、本当にありがとうございました。おかげで、報告書ができました。ただ、この報告書は、これで終わりではございませんで、ご案内のように、皆様方がこの146の課題の中から、委員の皆様が、区民の皆様がご自身で優先順位を決めて、まずは140幾つを同時に審議できるわけではございませんので、宮前区にとって何が一番重要か、何が優先かということをご議論いただいて、4つ選んでいただいて、みずから選んでいただいた優先順位のもとに分科会を設けていただいて、ご議論していただいて、そして、高齢者と子どもについては18年度で解決策までまとめていただいて、19年度からその解決に具体的に取り組んできたわけで、具体的な解決に取り組んでまだ1年しかたっておりません。ようやくこの解決への具体的な活動が協働の事業が始まったばかりでございまして、これは引き続き今後も行政を初めといたしまして、区民の皆さん、それから、区民の皆さんと行政と協働でこの解決を進めていく、そして、私どもの第2期の区民会議の場で、行政としての取組の報告を逐一またさせていただく。そして、委員の皆様からもご報告をいただいて、これは続いていくものでございます。1期の区民会議の委員として何を議論して、何を課題に、どういう解決策をみずから生み出して、どう具体的に取り組んだか、そこをまとめたのがこの第1期の総括でございまして、これはスタート地点でございます。これからもこれを推し進めていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げたいと思います。

それから、参与の皆様方には、きょうまとめていろいろご助言をいただきまして、ありがとうございました。この区民会議に参加としてご参加いただく、その意味合いとして、条例だったと思いましたが、議員の皆様は広い視野からこの区民会議の委員に対して助言をする、助言をしていただくということがはっきりとうたわれておりまして、その面でもきょうは貴重なご助言をいただいて、ありがとうございました。ただ、この区民会議は、議会がありながら、なおかつこの区民会議が別途自治基本条例に基づいて設けられているという、そのこのところをきちっと私たちも理解していきたいというふうに思っている次第でございます。この区民会議は区民自身の手で課題を発見して、区民自身の手で解決できる地域の身近な課題に取り組んでいこう、そこがこの区民会議のメインになっているところでございます。区民自身が主体になって、汗をかいて、みずから参加と協働を実践していく、そういう場として設けられているところでございます。それに対して議員としての幅広い識見とご経験のもとにご助言をいただいて、よりこの区民会議が実りあるものになっていく、そういう関係が私は非常に望ましいと思っておりますので、これからもどうぞよろしく願いした

いと思います。

それから、予算がかかるもの等々いろいろございます。それにつきましては、先ほど協働事業推進のところでも申し上げましたけれども、区民会議で具体的に出た解決策の幾つかは5500万円の協働事業推進費の中に取り込まれておりまして、6つの事業が新たに20年度の宮前区協働事業推進費の中に組み込まれておりまして、予算がついて、この区民会議の課題の解決に向かって、行政も施策として取り組んでいくという、そういう姿勢を出させていただいているところでございます。

いろいろお礼方々申し上げて恐縮でございますけれども、そういった点を踏まえていただいて、これからは私もこの解決に向かって取り組んでいく、この経過については今後ともご報告をさせていただこうというふうに思っておりますので、委員の皆様方もぜひこれからは地域のレベルで、解決の実践の一員として実践を担っていただくような、そういう心づもりでこの解決策の実現に向けてまたご尽力を改めていただきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げたいと思います。

長くなって恐縮です。委員の皆様、参与の皆様、本当にありがとうございました。3月にフォーラムがございますので、またそのときにお目にかかってご議論いただきたいと思います。きょうはありがとうございました。（拍手）

司会（岩澤） ありがとうございました。それでは、第1期宮前区区民会議の最後となりますけれども、これをもちまして第4回宮前区区民会議を閉会させていただきます。2年間にわたりましてありがとうございました。

午後8時27分閉会